

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)		
所在地	京都府京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2694000049-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2694000049-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年12月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛の家グループホーム京都洛西では、ご入居者様に自宅に居られた時と同じような環境で過ごしていただき、できることを妨げず、いつまでも行いたいことができるように支援しています。ホーム独自の理念として「介護＝快互」を掲げています。入居者様の生活を支えることを第一に考えた上で、支援する側と支援される側に分けるのではなく、入居者様と職員がお互いに助け合いながら日常を過ごすことでお互いに笑顔になれる、お互いに快い気持ちになれるとの思いを込めています。今年度は昨年よりも自治会との連携を図ることができ、地域の一員として入居者様と様々なイベントに参加したり、防災関係でも協力関係を築くことができました。職員同士も大変仲が良く、助け合いながら入居者様の事を第一に考え、入居者様の喜びを職員自身の喜びとして生活支援をおこなっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者が室内に閉じこもる事なく日々散歩や菜園のある広い庭に出て外気浴をしたり、利用者と共に食事作りや梅干し漬け、収穫した野菜で切り干し大根を作る等利用者のできる事に携わってもらい、家庭生活のような暮らしに向けた支援を大切にしています。職員は主体的に考え些細な気づきも含めて積極的に意見や提案を出し合い、利用者ここにきてよかったと思ってもらえるような支援に努めています。また家族との関係も大切に外出行事やイベント時には家族にも声をかけ共に楽しめる機会を作り、実家に戻って来るような気持ちで気軽に訪ねてもらえるように努めています。今年度のビジョンに「地域とのつながりを深める」と掲げ、地域行事に積極的に参加し、近隣からは柿や野菜が届いたり、ホームの畑の世話を近所の方が担う等日常的な交流が深まっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて運営理念・ビジョンを唱和し、共有しています。	独自の理念の基、今年度は「地域とのつながりを深める」と職員の意見を取り入れたビジョンを作り、具体的な実践に向けて分りやすい項目を示しています。職員は日々交代で項目の中の一つを選んで朝礼時に発表することで考える機会としています。年度末にはビジョンや項目の達成度を確認し次年度の目標へと繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の学校の校外学習の受け入れるなど地域との関わりを持っています。	地域の区民運動会や音楽会、小学校の運動会の見学に行ったり、近隣の施設とは行事に行き来している他、歌や踊り、演芸等のボランティアの来訪や中学生の体験学習を受け入れ交流をしています。毎日散歩や買い物、広い庭に出たり、ホーム周辺は利用者と掃除し、出会った方と挨拶を交わしています。近隣からは柿や野菜が届いたり、ホームの畑の世話を近所の方が自主的に担う等日常的な交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪されたときや 問い合わせの電話、学生の受け入れ等 随時相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会会長、社会福祉協議会、民生委員、地域包括、福祉施設等様々な方にご出席いただきホームでの取り組み等話し合いサービスの向上につなげています。	会議は家族や地域の関係者、時には利用者にも参加を得て開催し、運営推進会議への理解が深まるよう毎回意義を伝えていきます。ホームの状況や行事等を報告し、会議の中で得られた意見は行事やボランティアの来訪に繋げたり、避難訓練の課題について話し合った際には災害時の協力を依頼する等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、議事録を洛西支所に提出に行き、疑問点等は相談しています。	運営推進会議の会議録はホーム長や事務員がその都度支所の窓口を持参し、内容について質問を受ける事もあり取り組みを伝えていきます。また分からない事があれば電話で相談したり、研修案内や地域連携の勉強会等に参加し意見交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や指導を行い スタッフに周知しています。	年に2回法人の資料を基に身体拘束に関する研修を行い全職員に周知しています。夜間以外は施錠は行わず気候の良い時期は玄関を開放しフロアや広い敷地内を自由に動き過ごせるよう職員が連携して見守っています。また待ってもらう際の声の掛け方や言葉による行動の制止にも留意し、拘束のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中でスタッフ同士注意し合ったり、社内研修・指導で防止に努めています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けておられる方がいらっしゃる、運営推進会議に司法書士の方も参加下さり、内容についても学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を読み合わせ、都度質問あれば答えるようにして、ご家族様の理解・納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族アンケートを実施し要望・意見に対して取り組みを行い運営に反映させています。	面会時などは家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、家族からは多くの意見や要望を聞いています。意見を受けて家族参加型の行事を増やしたり、個別の意見にはその都度検討し対応しています。また年に1度法人によるアンケート調査も行われ、結果は玄関に掲示すると共に家族にも文書で報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中での職員の意見やフロアごとのカンファレンス等で提案や意見を聞き運営に反映させている。	職員の意見は日々の業務の中で聞いたり、全体会議やフロア会議の際は職員に事前に議題を募り、それを基に職員間で話し合っています。職員からは小さな気づきも含めて多くの意見や提案が出されており、可能な限り取り入れるようにし、内容によっては法人に上げ検討されています。また職員の様子を見ながら随時話を聞いたり相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰等様々なコンテストを行い職員のモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関西既存のホーム内で各力量に合わせ計画を立て研修を行ったり 社内資料にて毎月月度研修を実施したり 外部の研修にも参加を促している。様々な資格習得支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所への挨拶回りや、イベントへの参加などでネットワークを築いたり推進委員会でも参加頂いたりして交流し情報こうかんしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、希望や不安等を聞かせて頂き、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、ご入居者様と共に家族様の不安や希望を出来るだけお伺いし、信頼関係の構築につとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、ご希望に対してその方のためにならないと判断した場合は、相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし出来ないことのみお手伝いさせていただきようになっている。また、様々な事を教えて頂いたりして相互関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けて欲しいこと等があれば、家族様に相談させて頂いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話をご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩やドライブに行ったりしている。	友人や知人、親せきなどが会いに来られており、居室やリビング等ゆっくりできる場所へ案内したり、一緒に外出する方もいます。職員が付き添い、よく行っていた神社や家が気掛かりな方と家を見に行ったり、年賀状や面会に来られた元同僚への礼状等を一緒に書き投函する等、関係が継続できるよう支援しています。また本人の思いが実現できるよう家族に伝えることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で助け合ったり(家事など)状況に応じて入居者様同士が関わりあえるよう支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と連絡を取り、ホームのイベントなどに参加していただいている。	/		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めており、センター方式の一部も使用している。	入居に向けての面談で本人や家族から生活に関する希望等を聞いたり、利用していた事業所からも情報を収集し意向の把握に努めています。日々支援する中で職員の気づきや所見のみを記入する特記票を作ったり、個人記録や連絡ノートに記入した情報を基にカンファレンスを開き、職員間で検討しています。把握の困難な方は改めて家族に聞いたり、利用していたサービス事業者に聞くこともあり把握に努めています。	/	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にあセスメントを取りますが、生活している中で気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で、常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行い、職員間で共有している。	/		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。	本人の意向やアセスメントの基、家族の参加を得てサービス担当者会議を開いて検討し介護計画を作成しています。会議に参加できない家族には面会時や電話等で事前に意向を確認しています。毎月全職員が評価したものを集約し計画の実施状況や新たな課題を確認し、変化のない場合は3か月毎に計画を見直しています。必要に応じて往診時に聞いた医師の意見を反映しています。	/	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護計画を作成している。	/		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことをできるだけ支援できるよう取り組んでいる。状況に応じてご家族様にも協力をお願いしている。	/		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の会合に出席したことで、地域の様々な取り組みに参加することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診医に来て頂いており、緊急時も24時間医師の指示を受けることができている。週1回看護師が勤務し、受診介助や医療連携をおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容を記録し、スタッフも気付いたことを記入したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に病院関係者との情報交換や相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもしてくださっている。毎月病院への挨拶まわりもおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約の段階で、重度化や終末に向けた方針の話し合いをおこなっている。ホームとして看取りに向けた話し合いをおこなっている。	入居時に終末期の対応について指針を基に説明し、大まかな意向を確認しています。重度化した場合は医師から家族に説明が行われ方針を決め、それに沿ってホームとしての対応を話し合っています。まだ看取り支援の経験はありませんが希望があれば家族の協力を得ながら対応したいと考えており、他事業所での取り組みや看取りの資料などを参考に学ぶ機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習を受講済みであり、新人職員に対しても、消防署の救急講習受講を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。全職員が緊急時の避難場所も把握している。災害時の自治会との連携も取れている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けをおこなっている。	朝礼時にホーム長から利用者への言葉遣いや入室時の利用者への声掛け、お辞儀の仕方や来客への対応等の基本的な事を職員に伝えています。また職員間の申し送りの際や排せつ介助の際等は周りに十分配慮しています。不適切な対応が見られた際には職員間でも注意するよう伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様ご本人がおこないたい事を実施できるように、随時声掛けなどの働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たり、歌を唄ったり、家事をしたりと、ご本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、「今日はどの服にしましょうか？」と伺い選んでいただいています。装飾品のお好きな方は毎日身に付けておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の材料を切ったり、皮を剥いたり、お盆の用意や後片付けなどもして下さっています。おやつ作りなども一緒におこなっています。	利用者の好みを取り入れながら各ユニットが交代で全員の食事作りを行い、職員も共に食卓に着き同じ食事を摂っています。利用者や近隣の野菜売り場に行きできる事に携わってもらっています。お節料理や七草粥、土用のウナギ等暦の上での行事食やバーベキュー、流しそうめん、寿司の出前を取ったり、おやつ作りの他、梅干しや切り干し大根等も利用者に教わりながら作っています。個々に合わせた調理方法や味付けで美味しく食べられるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重やその方の状態に応じて食事量などを調整し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをおこなってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいている。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいている。		



愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声掛けおこない、トイレ誘導を行うことで自立に向けた支援をおこなっている。	排泄の支援が必要な方は排泄チェック表を基にリズムを把握し様子を見ながら声掛けをしたり、トイレで排泄ができるよう案内しています。立位のとれない方も本人の思いを汲みトイレで排泄ができるよう支援する等、本人の意思や家族の意向を尊重し、本人に適した支援方法を検討しています。おむつを使用して退院となった場合等は早期に元の状態に戻るよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によっては食後の運動や、その入居者様にとって便秘に効くと思っておられる物を提供したりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴希望に合わせて柔軟に対応している。季節によっては、菖蒲湯やゆず湯等も楽しんでいただいている。	入浴は週に2回を目安に入りたい時に入れるよう一人ずつ湯を入れ替え、重度の方も二人介助で湯船に浸かり温まれるよう支援しています。入浴はマンツーマンでゆっくり対応し、好みのシャンプーの使用や季節湯、入浴剤も用いて入浴が楽しめるよう支援しています。また見守りで入れる方は夏場のシャワーを増やしたり、入浴を拒む方は入ってもらいやすい職員に交代したり、難しい場合は翌日にするなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて過ごしていただいております、居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、夜眠りにくい方にはコーヒー等の刺激のある飲物は午後からは控えるようにしている。就寝前にはホットドリンクを飲んでいただいたりと安眠にもつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、入居者様の状態を見ながら往診医・看護師と相談しながら服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だったり、大好きだった人には料理や掃除などをしていただいたり、食事に関しても昔から好きだった物や広告を見て欲しい物などを購入したりと個別で楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出はできるだけご本人の希望に添えるよう支援しています。散歩や買物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などは、ご家族様に連絡して相談させていただいています。	散歩や買い物、椅子とテーブルがある広い庭には菜園もあり、ほぼ毎日外に出て外気浴をしています。毎月外出行事を企画し、初詣や桜の花見、紅葉狩り等季節を感じられる外出やショッピングモール、百貨店などにも出かけたり、その日の天気や希望等で外出する事もあり、出かける機会を多く作っています。また外出行事によっては家族にも声をかけ一緒に楽しんでもらっています。	



愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やお金を持っていないと不安とおっしゃられる方については、ご本人で管理されています。(ご家族様了承済)買物に行くと自ら出されることもあります。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、掛けていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出している。リビングには加湿器を抗菌作用のあるソリューションウォーターを設置しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け換気にも気を使っています。	共用空間はクリスマスや正月飾り等の他、毎月季節感のある作品を利用者と共に作成し、壁に飾ったり、大きく見やすいカレンダーを掛けています。また日差しの調整やテレビをつけたままにしない等、音や光にも留意し、高齢者が落ち着けるよう配慮しています。テーブルや椅子の配置を随時変更したり、廊下の奥にもベンチがあり、静かに過ごせる場所も作るなど、利用者が快適に過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは1人になれる場所が作りにくいですが、気の合った入居者様同士で過ごされることが多くあります。廊下の奥にはソファを設置しており、1人になれる空間となっています。	/	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物や大切にされていた物(お仏壇やアルバムなど)を持ち込んでいただいております。自宅と同じ様な環境で暮らしていただけるようにしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できて、その日の状態を判断できる方は状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が難しい方に関しては、スタッフが日々の状態を観察しながら、その都度声掛け行い、自立した生活を送れるよう支援しています。	/	